



【書評】藤嶋 昭著『生徒たちに感動する心を育てよう』— 科学者からみての教育問題への一提言—東京書籍刊

A5変形判 八〇ページ 頒価記載なし

酒井 董美 ただし

著者は光触媒発見で知られる科学者であり、財団法人神奈川科学技術アカデミー理事長。七十九歳。本書は平成十九年(二〇〇六)六月四日に行われた、神奈川県教育研修会での講演をベースにまとめられている。

「はじめに」の一部を引いておくと、「少しでも理科好きな生徒を増やしたい、身のまわりのものから少しでもおもしろいと感じるきっかけをつくりたいと強く思うようになったのです。」と述べられており、このことを現職の教師のみなさんに訴えようと講演されたことがそこから理解できる。

そして本書は次の十章からなっている。ここから講演がどのような内容であったかが推察できよう。

①光触媒との出会い ②暮らして広がる光触媒、酸化チタンの未来 ③研究に必要なこと ④アウトプットからアウトカムへ ⑤基礎をしつかり ⑥広い教養を ⑦身のまわりのものに関心をもつ ⑧比べることのおもしろさ ⑨神奈川科学技術アカデミーの取り組み ⑩フアラデーの『ロウソクの科学』のこと。

さて、光触媒を活用することで、私たちの生活が大きく変わりつつある。それについて第二章の「暮らして広がる光触媒、酸化チタンの未来」から拾っておくと、トイレに使うタイルの上に酸化チタンをコーティングして光を当てると、大腸菌、MRSA(耐性黄色ブドウ球菌)、緑膿菌が殺菌できる。道路のトンネルの中で、照明器具のカバーガラスの油污れも、酸化チタンをコーティングすることで付着しなくなる。鉄道の駅ホームのテントにコーティングすると、汚れにくくなった。また鏡が曇らなくなるので、自動車のサイドミラーに使用するなど、活用する事例をいろいろ挙げながらの叙述に研究成果の素晴らしさが納得させられた。

著者は研究者に必要な資質として、センス、ひらめき、独創性を重視し、融通が利くことを挙げている。

最後に、Fuji-shima(藤嶋)の「3F」としてFighting(積極性)、Fair(公平性)、First(第一級の人物)を挙げている。このようにご自身の姓「藤嶋」にかけて、3Fなどとユーモアを交えながら、研究者の資質アップを主張されているのは微笑ましかった。

それはともかく、世界的に知られた著者のような権威者の講演が、容易に可能である都心周辺の人々に、半ば羨望の念を抱きながら、筆者はこの講演記録を読んだところである。

(元島根大学法文学部教授)